

金沢大学英文学会

The Society of English Literature, Kanazawa University

NO. 9 *NewsLetter*

2017.11.1

★金沢大学英文学会は、1953 年 1 月第 1 回卒業生の予餞会で結成。年 1 回総会と講演会・研究発表会を開催、学会誌 *KES* は 1954 年創刊、現在 29 号を数える。

会員のみなさま、お変わりございませんか。NewsLetter 第 9 号をお届けします。本年度の運営委員会がさる 8 月 5 日に開催され、本号は、そこで討議された内容をもとに編集されています。

=====

バーンズ邸のことなど

高田茂樹

今年の四月から中村芳久会長の後を受けて、金沢大学英文学会の会長を務めさせていただいている高田です。定年まで二年間ということで、その間、どうぞよろしくお願いいたします。会長といっても要するに年齢と勤務期間の長さによるもので、それだけ年を取ったということかと実感しています。ということで、後はその年齢についての感慨と、その連想から来る四方山話です。



インターネットでオークションに参加し始めた頃、当初は物珍しさもあって、いろいろなものを覗いていたが、だんだん関心が絞られていって、ほとんど骨董という名のガラクタばかりに目が行くようになった。

以前テレビで（だったと思う）、ゴミ屋敷の話題になったときに、そういう状況を生むのは、ほとんどが一人住まいの高

年齢で、年を取って孤独と物欲が募った結果そういう状態に陥るといった議論になっていて、我ながら身につまされる思いがした。

今のところ、自分ではまだゴミ屋敷にはなっていないと信じたいが、この先どうなるかわからない。そうなる前に、一刻も早く広い家に移りたいと思うが、これもいろいろ事情が重なって、すぐには動けず、どうにも辛いところである。

類をもって集まるというわけではないが、そういうふうには僅かなりともものを集め出したりすると、コレクターというのはどういう人なのだろうと気になったりするのだが、これがまた、少し調べてみると、相当な偏屈者が揃っていて、心配になったり、まあ自分は小心者だからそんなことにならないかと安心したりもする。

本来自分の金でもない会社の資金をジャブジャブ注ぎ込んで、中国の陶磁器を買いまくった挙げ句に、堅実な社風で知られた一大総合商社を破綻に追い込んだ安宅英一も、そういう点では、相当な猛者だが、一代でバーンズ・コレクションを築いたアルバート・バーンズも、かなり癖の強いコレクターだった。

最初にバーンズの名前を知ったのは、1994年、東京上野の西洋美術館で「バーンズ・コレクション展」が開かれた際で、それまで遺言によって門外不出とされていたのが、初めてバーンズ邸の外で公開されるという触れ込みに惹かれて、学会で東京に出たついでに、観に行ったのだが、展示品—ほとんどが印象派の絵画だったように記憶している—の豊かさに圧倒された。東京だけで百万人を超える

観客が訪れたということで、たいへんな盛況だったわけだが、この展覧会は実は東京だけで企画されたわけではなく、ワシントンやテキサス州フォートワース、フィラデルフィアなどのアメリカの都市や、パリ、ロンドン、トロントなど世界中を巡ったのだという。門外不出と厳命されていたコレクションになぜこれほど大規模な展覧が企画されたのか、その理由はひとえに資金が不足して、コレクションの維持が困難になっていたということにある。

アルバート・バーンズはもともと化学者で、アージロールという名の目や耳など局所用の防腐剤を開発して、一代で財をなした人物だった。当時、油田の開発や砂糖の売買などで莫大な富を得たアメリカの富豪の多くが、ヨーロッパの美術品や文化財を買いあさって、自分のコレクション作りに余念がなかった。のちにニューヨークのメトロポリタン美術館に一大コレクションを寄贈したハヴェマイヤー夫妻や、ボストン美術館のジョン・T・ス波尔ディングなど、それぞれパリに代理人を置いて、時に自身で赴いて、印象派の絵画などを爆買いしていたのである。実際、われわれは印象派の絵画というと、フランスとりわけパリとその周辺の文化的現象と考えがちだが、経済的な視点から見ると、印象派の画家たちの作品を買って、彼らの生活を支えた最も大きな力は、疑いなくアメリカの富豪たちだった。もちろん、ロシアのエルミタージュ美術館なども印象派の絵画コレクションには目を見張るものがあり、アメリカ人だけというわけではけっしてないが、いずれにしても、この時期には、現代とはかなり趣を異にするグローバルな状況が生まれていたのである。

ただ、バーンズは、単なるコレクターではなく、自身優れた鑑識眼と芸術に対する強い使命感を具えていた。彼がフランスの絵画やアフリカの原始芸術を数多

く買った理由の一つは、自分の経営する会社の従業員の教養のレベルを向上させて、生活の質を高めることにあったとされ、実際、自宅に飾られた絵画を前にして従業員に対する美術講座を定期的開催したりもした。何冊もの芸術論を著して、的確な批評でも定評があった。当時ほとんど無名だったスーチンを〈発見〉したのもバーンズの功績である。尤も、本人は相手の絵が売れていないの进行いことにさんざんに買いたいたのだが、バーンズがスーチンを買っているという噂が市場に流れたために、それ以降スーチンの絵は一気に高騰したというから、世の中何が幸いするかわからない。

尤も、バーンズの場合、自分の収集品と眼に対する強い自負が時に災いして、人の評価が自分の考えと異なる際などに、それが強い反発や怒りとして表面化して、年とともにその傾向が強くなっていった。セザンヌの『女性大水浴図』は三つあって、構図もだいたい似通っている。一般にフィラデルフィア美術館にあるものが最も完成度が高く優れているとされているが、「バーンズ・コレクション」の一点もむしろ原始的な力強さに溢れ、魅力ある作品である。けれども、バーンズは自分の蒐集したものこそがあらゆる点で最も優れているという立場を譲らず、異なった意見に頑なに拒否反応を示すようになって、時に激しい非難の応酬を繰り返したりもした。

こうして、美術界でもしだいに孤立するようになったバーンズは、晩年にはすっかり人嫌いになり、先ほども言ったように、自分のコレクションを屋敷から一歩も出してはならない、複製も全面禁止など、遺言で厳しい制約を設け、屋敷での公開についても、厳格に制限を加えた。

しかし、日数も定員もごく限定したような公開などで、屋敷と収蔵品の維持・管理など望むべくもなく、バーンズの残

した基金も年ごとに細っていった。財団としても手をこまねいていたわけではなく、遺言の趣旨を守るという条件で、公開の規模を拡大するなど、努力を重ねたが、これもまた、バーンズ邸が交通の便の悪い閑静な住宅街に位置していたこともあって、周辺道路の渋滞や不法駐車が後を絶たず、近隣の住民のあいだに激しい反対運動を引き起こすなど、手詰まりの状況に大きな変化はなかった。1993年から95年にかけてのコレクション（の一部）の世界行脚も、一時しのぎにはなったが、根本的な解決にはほど遠かった。こうして、どうしようもない状況の中で、識者による検討の結果、フィラデルフィア市の中心部に市が土地を提供するかたちで、新しいバーンズ邸が建てられ、収蔵品も基本的に全てこちらに移管されることになった。

写真で見る限り、新しいバーンズ邸は、いかにもスタイリッシュな現代風の美術館だが、建物の内部と展示物の配置は、元のバーンズ邸のものを忠実に再現しているのだという。こうして、四散すら危惧されたバーンズ・コレクションはようやく安住の地を得たわけで、遺言には逆らうかたちとはいえ、芸術教育にひとかたならぬ情熱を抱いていたバーンズにふさわしい、適切な落としどころだったと言えよう。フィラデルフィア市にとっても、新しい観光スポットが得られたわけで、もともとアメリカ建国のゆかりの地でありながら、ボストンやニューヨークなどに比べてどこか地味な印象の町にあって、今後大きな資産となっていくに違いない。定年後、体力が残っていれば、是非とも行ってみたい場所の一つである。

そういえば、安宅英一のコレクションも、安宅産業の経営破綻後、負債処理にあたった住友銀行から一括して大阪市に寄贈され、これを元に中之島に新たに建てられた東洋陶磁美術館は陶磁器マニアの一大メッカになっている。

世間的な常識からどこかはずれたコレクターの異様な情熱が、後世に残る大きな公共的遺産を生み出したという点で、両者はどこか似ているが、文化的遺産とは多くの場合そういう情熱と非常識の融合から出来るものなのかもしれない。



2017年度金沢大学英文学会 総会プログラム

日時：2017年12月2日（土）

第1部 10:00～12:10

第2部 13:30～17:00

会場：金沢歌劇座（大練習室）

〒920-0993 金沢市下本多町6番丁27
(TEL: 076-220-2501)



総会第1部 研究発表会 (10:00～12:10)

10:00～10:30 荒井 悠翔 (M2)

「「了解表現」の意味分析―“I understand.”
を中心に―」

10:30～11:00 廣田 篤 (D3)

「「クジラ構文」の類型と論理性に基づく
構文分析―対偶的解釈の射程―」

11:00～11:10 休憩

11:10～11:40 茶谷 丹午 (D2)

「ラフカディオ・ハーンにおけるスペンサー哲学受容の評価を巡って」

11:40～12:10 川上 省三 (日本工業大学)

「ハニフ・クレイシの作品におけるイスラム系移民一世の英国社会に対する意識の類型」

**総会第2部 (13:30～17:00)**

13:30～14:10

開会の辞 高田茂樹会長

- 総会
1. 会計報告
 2. 会の活動報告
 3. その他

14:10～14:20 休憩

14:20～15:30

英語教員の卒業生による英語の
教育現場について報告

福岡輝樹 (H22 年卒業)

杉本親祐 (H22 年修了)

寺山里穂 (H26 年卒業)

15:30～15:45 休憩

15:45～16:45 講演

「19 世紀中葉のアメリカ大衆小説に
おける大学と法律」

大野 瀬津子

(九州工業大学, H10 年卒)

16:45 閉会の辞 黒川顕成副会長

**17:30～19:30 懇親会**

会場：びって！！

金沢市木倉町 2-10

(TEL: 050-5861-8801)

会費：4,500 円

**《只今留学中》**★ニューヨーク州立大学ニューポルツ校
より

3 年 近藤 真優

私は今年の 8 月末よりニューヨーク州立大学ニューポルツ校に留学しています。こちらに来てもう二か月が過ぎ、時の流れの速さを実感しています。今思い返せば出国二週間前ほどから異国の地へ飛び立つことに対する不安と恐怖から留学に対して負のイメージを持っていました。今ではこちらの生活にも慣れ、そんな風に悩んでいた日々が馬鹿馬鹿しく思えるほど楽しい毎日を送っています。毎日何かしらの新しい学び、新しい気づき、新しい経験があります。この二か月で数えきれないほど多くの新しい出会いと多くの新しい経験をしてきました。キャンパスは山に囲まれた自然豊かな場所に位置しており、リスやスカンク、ウサギなどの動物がキャンパス内を駆け回っているのを見ることができます。キャンパスを出て少し下ったところにあるニューポルツタウンには多くのレストランが立ち並んでおり様々な国籍の料理を楽しむことができます。また雑貨や日用品などが購入できるお店もたくさんあり生活するには大変便利な場所です。先日のハロウィーンには町中の人々が仮装をし、タウンのメインストリートを行進するというハロウィーンパレードがあり私も仮装をして参加しました。

私は大学の敷地内にある寮に住んでおり、二人部屋でルームメイトはアメリカ人です。6 人で一つのスイートを共有しています。私は East West Living Learning Community というコミュニティに所属しておりアジアの文化に興味を持った現地の学生と交流する機会が多くあります。先日もコミュニティのメンバーで大学の近くの山へハイキングに出かけました。紅葉がとても美しく秋を感じ

じる一日でした。また ISU という団体に所属しており様々な国の文化に触れる機会があります。

今学期は ESL のクラスを受講しています。クラスメイトは中国人の生徒が最も多く、次いで日本人、韓国、トルコ、ブラジル、コロンビアと様々な国から来た学生とともに学んでいます。リーディング・ライティングのクラスでは様々なタイプのエッセイ課題に取り組んでいます。スピーキング・リスニングのクラスでは主にスピーチを行っています。カレント・イベントというクラスでは世界の最新のニュースについてグループごとにプレゼンテーションを行っています。来学期はアカデミックのコースを受講する予定です。

残りの8か月、充実した日々を送れるように一日一日を大切に過ごしたいです。

《 平成 28 年度卒業論文題目 》

黒岩 奏映 People Surrounding Jane Eyre and Her Growth as a Human

白石 峻太郎 On the Characteristics Found by Comparing *The Hobbit* with the Japanese Translations

千代 夕夏子 Self-empowerment and Female Bonding in *The Color Purple*

谷川 周子 Analysis of *The End of the Affair*

長尾 亮祐 Gender Ideology and British Society in *Mrs. Dalloway* —The Context of War, Empire and Psychiatry—

前川 祐喜子 An Analysis of Pip's Growth in *Great Expectations*

松原 由美 On the Perception with Affordance and the Relationship with the Environment

向 翔太 The Ending of Heathcliff and Catherine

大崎 友輔 On English Synesthetic Expressions in a Music Commentary

斎藤 真友 The Significant Impacts of Various Types of Characters on Emma Woodhouse

中出 真亜沙 A Semantic Study of *With*

中村 千尋 Resignification of Funkiness: A Study of *The Bluest Eye*

《 平成 28 年度修士論文題目 》

石垣 恵一 What on Earth Is “over lunch”? A Cognitive Linguistic Approach

山田 美紀 A Speech Act Analysis of *Did you ever ...? and Have you ever ...?*

(人間社会環境研究科 優秀論文(秀) 賞受賞)

西門 綾子 A Study of Effective Methods for Teaching English: Reading Aloud and Reading Comprehension

グレタ・コール 多くの女性が働く環境は伝統的な性別役割分業意識を弱めるのか—福井県の事例を通して—

《 平成 28 年度博士論文題目 》

中谷 博美 Structure and Meaning of Tag Questions: A Cognitive Linguistic Approach

向井 理恵 Cognition of *Ma* in Language: A Cognitive Linguistic Approach

市川 泰弘 Study on Constructions with English Verb *Get* Reflexive Pronouns and the Attenuation of Subject NP's Force

《 在学生の状況 》

<学生数>

2 年生 9 名 (男性 2 名、女性 7 名)
3 年生 9 名 (男性 5 名、女性 4 名)
4 年生 20 名 (男性 9 名、女性 11 名)
院生
博士前期課程 2 名 (男性 2 名)
博士後期課程 3 名 (男性 3 名)

<過去 3 年間の派遣留学先>

シェフィールド大学、セントラル・ラン
カシャー大学 (英国)、ダブリンシティ大
学 (アイルランド)、ネヴァダ大学リノ校、
ニューヨーク州立大学ニューボルツ校
(米国)、ユバスキュラ大学 (フィンラン
ド)、ゲント大学 (ベルギー) など

学類全体の傾向ですが、公務員を希望
する学生が多いためか、長期の派遣留学
を希望する学生が減少傾向にあります。
その一方で、大学が企画するタイや台湾
などでの短期の異文化体験プログラムに
参加する学生が増えています。

<過去 3 年間の主な就職先・進学先>

石川県教員、福井県教員、石川県庁、
金沢市役所、白山市役所、金沢大学職員、
その他、楽天、(株)郵船ロジスティクスな
どの民間企業

金沢大学大学院、東京大学大学院など

民間企業の採用 (内定) は昨年より早
く決まる傾向にありましたが、公務員や
教員の採用試験は 9 月にまで及び、就職
活動自体は長期化の傾向にあります。

<平成 28 年度 (11 月～3 月) 及び
29 年度の院生による研究発表等>

◆平成 28 年度 (後半) 研究発表

・2016 年度金沢大学英文学会

(1 月 21 日: 金沢大学)

石垣 恵一「‘over lunch’に見られる over
の従事用法の認知言語学的考察」

山田 美紀「Have you ever ~? と Did you
ever ~? の使用傾向の違いについて」

茶谷 丹午「ラフカディオ・ハーン『人形
の墓』の解釈について一和辻哲郎の倫
理学を手がかりに一」

廣田 篤「No more A than B 構文とレト
リック性」

◆平成 29 年度 研究発表

・The 14th International Cognitive
Linguistics Conference

(July 10-14: Tartu, Estonia)

Nakatani, Hiromi and Li Qu

“The Chinese Tag Questions: A
Comparative Analysis with English
and Japanese”

・英語語法文法学会第 25 回大会

(10 月 21 日: 専修大学)

廣田 篤「「クジラ構文」に見られる条件
性と対偶解釈読み」

◆平成 29 年度 研究論文

・日本英文学会中部支部第 68 回大会
Proceedings

高島 彬「証拠性「らしい」の文法化につ
いて」

・『人間社会環境研究』34 号

(金沢大学大学院人間社会環境研究科)

茶谷 丹午「ラフカディオ・ハーン作品に
おける霊の表象について」

廣田 篤「「クジラ構文」の意味構造と認
知的な特徴に関する一考察」

《 2016年度会計報告 》

以下の会計報告は、12月の総会に諮られます。

2016年度金沢大学英文学会会計報告

(2016年4月1日～2017年3月31日)

会計 正木恵美・屈莉
会計監査 西多喜代子

収入	2,907,220 円
(内 前年繰越金	2,470,014 円)
支出	549,809 円
2017年度への繰越	2,357,411 円

【収入内訳】 (円)

2016年度 KES 会費

(在学生分、総会時支払分、振込分)

	178,000
維持費	115,000
懇親会費	144,000
利子	206

小計	437,206
2015年度繰越	2,470,014
合計	2,907,220

【支出内訳】 (円)

金沢歌劇座使用料	10,260
KES29号印刷代	204,552
KES, ニュースレター発送関連	

用紙等備品	12,399
送料	115,470

2016年度総会用

お茶代・花代・備品	28,217
総会施設利用料(金沢大学)	20,475
懇親会費	158,436

合計	549,809
----	---------

《 事務局より 》

1. 会費の納入について

同封の振込用紙にて、2017年度会費2,000円の納入をお願い致します。ぜひ、会費と共に維持費(一口2,000円)もよろしくお願い致します。

これまでご納入頂いてない方も、当学会の運営状況をご理解の上、何卒ご協力のほどお願い申し上げます。

○会費・維持費等の振込先:

ゆうちょ銀行

口座記号: 00720-6

口座番号: 16171

加入者名: 金沢大学英文学会

2. 総会、懇親会の出欠について

同封の葉書(S50年卒までの方に同封)、またはEメールにて、総会及び懇親会の出欠を11月28日(火)までに事務局までお知らせ下さい。その際には、ご氏名(旧姓)、卒業(修了)年、ご住所、(お葉書の方は)メールアドレスをご記入願います。また、ご近況もぜひお書き添え下さい。頂いたお葉書やメールは、大事に保管し、総会時に閲覧できるよう受付に置いておきます。どうぞよろしくお願い致します。

3. KES 30号について

次号KES 30号に関しましては、<中村芳久先生退職記念号>とし、2017年度内の発刊に向け、準備を進めております。特に、中村先生との思い出を綴ったエッセイ(1,000字程度)はまだ募集しております。どなたでも投稿できますので、奮って一文をお寄せください。なお、思い出をお寄せいただける方は事務局までまずはご連絡ください。

4. メール会員登録のお願い

メール会員を募集しております。メール会員の方には、ニュースレター、研究

会や同窓会などのお知らせを、いち早くご連絡させていただきます。ご希望の方は、登録されるメールアドレスを金沢大学英文学会事務局までお知らせください。

【連絡先】 金沢大学英文学会事務局
E-mail: kesoffice.kanazawa@gmail.com

◆総会プログラム・ニューズレター発送にあたり、住所（転居先）不明の方が増えてきております。住所変更等ありましたら、お手数ですが、事務局までご連絡下さい。

◆金沢大学英文学会役員(H31年3月まで)

会長	高田茂樹
副会長	黒川顕成・和泉邦子
事務局	堀田優子・川島嘉美
会計	正木恵美・屈莉
監査	西多喜代子
KES 編集委員	高田茂樹 宮本正秀 和泉邦子 小原文衛 堀田優子 市川泰弘
広報委員	柳川三千代
運営委員	市川泰弘 宮本正秀 小林隆 向井理恵 中谷博美
院生委員	高島彬、廣田篤、茶谷丹午、 荒井悠翔、白石峻太郎

《 編集後記 》

今年度から高田茂樹先生を会長に、左記の新体制で学会運営を進めております。今回お届けした NewsLetter は、中村芳久前会長が充実させてくださったものを継承していけるよう、号数も第9号となっております。NewsLetter を通して、少しでも在学生と卒業生の皆さまのつながりを感じて頂ければ幸いです。

また、一年に一度ではありますが、KES 総会にもぜひお気軽にご出席ください。午前の部では、3名の院生と川上先生の研究発表（英語学2件、文学2件）があります。午後の部では、英語教員の福岡さん、杉本さん、寺山さんが高校での英語の授業の変化や現状を報告していただきます。また、今年のご講演は、大野瀬津子先生にお願いし、20年ぶりにご参加いただけることになりました。どれもお話を伺うのが今から楽しみです。

大学では、組織再編の波が押し寄せ、文系学部を縮小化していく動きも感じられる昨今ですが、伝統ある同窓会組織をもつ英文研究室の維持と KES の一層の充実をこれからも図ってまいりたいと思っております。今後とも、皆さまからのご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。(Y. H.)

金沢大学英文学会ニューズレター No. 9

2017年11月1日発行

〒920-1192 金沢市角間町
金沢大学人文学類 英語学英米文学研究室
金沢大学英文学会
代表者 高田 茂樹

E-mail : kesoffice.kanazawa@gmail.com
URL : <http://english.w3.kanazawa-u.ac.jp/>